

ロシア文化論Ⅱ

科目ナンバリング EUS-108
選択 2単位

中尾 泰子

1. 授業の概要(ねらい)

「ロシア文化論Ⅰ」に引き続き、1920年代から1960年代までのロシア(ソビエト連邦)の文化状況を中心に扱う。文学、絵画、映画、音楽、アニメなどを切り口に、激動と抑圧の時代に生きた芸術家たちの姿に迫る。特に「ロシア文化論Ⅱ」では、パリ、ベルリン、ニューヨーク等に亡命した芸術家たちにも触れる。また比較文化論の視点を取り入れ、同時代のヨーロッパの文化状況も横断的に考察する。授業内では積極的にDVD、画集を鑑賞したい。授業の終わりには数回短いレポート(レスポンス・シート)を提出してもらう。なおロシア語の知識は必要としない。

2. 授業の到達目標

- 1.ロシア(ソビエト連邦)の文化について理解を深める。
- 2.芸術を様々な角度から批評する力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

レスポンス・シート50%、期末テスト50%。

4. 教科書・参考文献

教科書

随時プリントを配布する。

参考文献

『集英社ギャラリー「世界の文学」15ロシアⅢ』

5. 準備学修の内容

メディアライブラリーセンター等を積極的に活用し、講義で取り上げる内容について確認しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

文化・芸術に関心のある学生に受講してもらいたい。授業中の私語は厳に慎むこと。注意を受けても従わない学生には退室してもらう。「ロシア文化論Ⅰ」を受講していることが望ましい。なお、レスポンス・シートを提出できなかった場合、いかなる理由にも配慮しないので、就職活動、部活動に関する証明書も受理しません。また、受講者が確定次第、教員が作成する座席表に従って着席のこと。

7. 授業内容

- | | |
|--------|------------------------|
| 【第1回】 | ガイダンス |
| 【第2回】 | 革命から大テロルまでⅠ：ザミャーチン |
| 【第3回】 | 革命から大テロルまでⅡ：ブルガーコフ |
| 【第4回】 | 革命から大テロルまでⅢ：プラトノフ |
| 【第5回】 | 革命から大テロルまでⅣ：アフマトワ |
| 【第6回】 | 映画鑑賞：ソクーロフ他 |
| 【第7回】 | 映画鑑賞：ソクーロフ |
| 【第8回】 | 亡命芸術家Ⅰ：ナボコフ |
| 【第9回】 | 亡命芸術家Ⅱ：ベルベーロワ |
| 【第10回】 | 亡命芸術家Ⅲ：シャガール |
| 【第11回】 | 亡命芸術家Ⅳ：カンディンスキー |
| 【第12回】 | ラーゲリ(収容所)文学Ⅰ：ソルジェニーツィン |
| 【第13回】 | ラーゲリ(収容所)文学Ⅱ：ギンズブルグ |
| 【第14回】 | ロシア・アニメ |
| 【第15回】 | まとめとテスト |